働く仲間の笑顔のために

田村まみ通信

mamitamura.com

３月号

予算委員会で補正予算の討論に臨む!!!

第２０１回国会では冒頭に令和元年度の補正予算案が提出され、私は立憲・国民民主の会派を代表して討論に立ちました。

令和元年度補正予算は、事業規模２６兆円、財政支出１３．２兆円に及ぶ大型の経済対策に基づいて編成されたもので、災害復旧・復興と経済対策部分に大別できます。討論要旨は以下の通りです。

災害復旧･復興予算には賛成

昨年は台風や大雨による災害が非常に多い年であり、私が栃木県の被災地に赴いた時には、今が旬の「とちおとめ」を育てているビニールハウスの前で、年が明ける時には目処がたつように早く対応して欲しい！と切実な要望を受けました。私たちは、一日も早い被災地の復旧・復興に向け、臨時国会で補正予算を通し、被災地・被災者に寄り添うべきと主張してきました。その経緯においては、当然、災害復旧・復興部分の補正予算には賛成であります。しかし、補正予算の国会提出が年を越し通常国会での提出に至ったことについて政府に猛省を促しました。

的外れな経済対策には反対

政府は、予算ルールを逸脱し、的外れな経済対策を一緒に盛り込みました。政府は、海外経済の下方リスクがあるから経済対策が必要としています。しかし、実際は日本の景気低迷がひどくて、大型の経済対策を策定せざるを得なくなったというのが実情です。

また、予算を粉飾することにより、財政の実態を国民に見えにくくしていることも問題です。決算剰余金は、財政法で1/2は借金返済に使うと決まっています。しかし、安倍政権は、借金返済に使わず、補正予算と令和二年度予算の国債発行を表面的に少なく見せかけるために使ってしまう粉飾予算を出してきました。さらには、補正予算の提出が越年したため、年度内に十分な執行が行われない可能性があります。

私と国民民主党は、国会審議において、粉飾予算の事実を厳しく指摘する一方、的外れの経済対策に代わる「家計第一」の経済対策を主張してきました。

令和二年度予算案審議においても、引き続き働く仲間の笑顔に繋げるために、国民・働く者の側に立った提案を積極的に行っていきます。

職場の声が活動の原点

2月は30の事業所を訪問。
349名の組合員さんが国会に
訪れてくださいました。

毎週の土曜日・日曜日と祝日は、働く仲間のもとへお邪魔させていただき、仲間が暮らす地域からの要望や職場討議などで出てきた「職場・暮らしの課題」をお寄せ頂き、所属の委員会質疑や党の部会、議員連盟などで情報共有を行い、政策立案・政策実現に繋げていきます。

厚生労働部会で厚生労働省、外務省及び法務省（出入国在留管理庁）から新型コロナウイルス対応のヒアリングを行い、国民のみなさんへの正確な情報提供と迅速・適切な対応を厚生労働省や出入国在留管理庁に求めました。

新型コロナウイルスの対応は、党を挙げて衆・参の予算委員会等で、政府の初動対応の不備を質し適切な対応策を求めています。

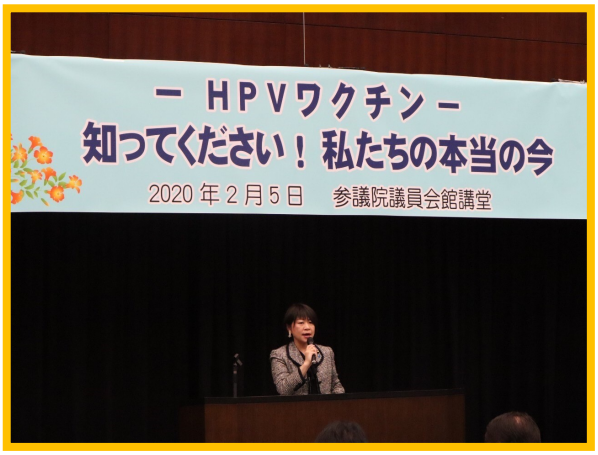
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/dengue_fever_qa_00001.html

私は「食の安心・安全を創る議員連盟」の事務局次長として我が国の食の安全・安心の確立に精力的に取り組んでいます。

我が国の食の安全性を高め、安心につながる信頼を確保するためには、消費者・生産者・供給者・行政がそれぞれの立場で責任ある主体的な取り組みが重要であると考えています。それらを総合的に推進し、安全と安心を実現していくのが政治の役割だと捉えています。

政党の垣根を越えて同じ思いを持つ議員と議員連盟の活動を通して政策実現に取り組んでいます。

交流のある地方議員さんよりご要請を頂き集会に参加し、ＨＰＶワクチンの副反応に苦しむに方々の切実な声をお聞きしました。

引き続き理解を深め取り組みを進めて参ります。

LINEの友達登録
お願いします。